

環境検討部会（第12回）議事概要

1. 日 時：令和3年9月1日（火）9：30～12：00

2. 場 所：小山市役所 会議室

3. 出席者：別紙のとおり

4. 議事概要：以下、本検討部会での決定や検討事項等について記す。

1) 生物調査について

（委員）

本資料では環境配慮施設であるワンドとワンド付近の新荒川排水路をまとめて整理しているが、ワンドの機能を明確にするため、区分して整理すること。

（委員）

環境配慮施設であるワンド部では、魚類の繁殖の有無等も確認するため、魚種ごとに体長のヒストグラムを作成し、整理・分析すること。

（委員）

環境配慮施設であるワンド部では、底質の粒度分布や厚さの変化にも着目し、調査及び整理を進めること。

2) ナガエミクリのモニタリング結果等

（委員）

ウィープホールの有効性を確かめるため、ウィープホールの有無とナガエミクリの生育状況の関係について統計的な分析を進め、次回の検討委員時に報告すること。

3) 環境配慮施設の概要（案）

（委員）

魚道については隔壁型（千鳥X型）で整備することとするが、整備（案）の魚道幅を40 cmから60 cmに変更するとともに、遡上する魚が休憩できる緩衝地（平坦部）を魚道下流部に整備（切り込み型に整備）、渇水期における魚道内の流量確保のため上流部に導流壁を整備すること。なお、その他構造については、各種指針等に基づき検討すること。

（委員）

ナガエミクリを定植予定の西清水川排水路開口部は、整備（案）の通り整備し、ナガエミクリの定植を行うこと。

(委員)

曲線部での環境配慮施設の検討にあたっては、整備後に想定される流れの形成等も考慮し、対策を検討すること。また、フトン籠、井桁ブロックや多孔質の護岸は、曲線部に、水路の内外の流速の差があり、土砂堆積の差が生じ、水深の多様性が生まれるので、曲線部よりも直線部に設置するほうが有効。